

東京都港区児童高齢者交流プラザでの昆虫体験事例 －ホタル観賞会実践報告－

○門倉洋輔（玉成保育専門学校） 上瀧徹也（公益財団法人 東京 YMCA）

廣瀬 団（玉成保育専門学校）

キーワード：児童館，自然体験，昆虫体験，外あそび，あそび環境

はじめに

本研究では、子どもの自然体験の奨励を目的として、東京都港区に所在する港区立芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ（以下、交流プラザという）の利用者を対象に、昆虫体験プログラム「ホタル観賞会」の実施と調査研究を行うこととした。

方 法

昆虫体験に参加した1～91歳の交流プラザ利用者221名【幼児：男児37名、女児25名、児童：男児44名、女児40名、成人（保護者含む）：男性20名、女性55名】に対して、昆虫体験の事前・事後に、日常における昆虫の印象に関するSD法質問紙調査を行った。統計処理には、SPSS (Ver. 27) にて、日常における昆虫の印象について、13項目の各平均値を算出した。昆虫体験の事前・事後の比較は、Wilcoxonの符号付き順位検定を用いた。倫理的配慮について、調査の回答は任意であること、プライバシーは保護されることを昆虫体験参加者に説明し、賛同を得たプログラム参加者から回答を得て、集計・分析を行った。

結 果

日常における昆虫の印象について、質問項目別に、221名の平均値を、昆虫体験参加者の評定値とした（図1）。昆虫体験前後で比較したところ、13項目すべてにおいて、有意差（ $p < 0.001$ ）がみられた。

考 察

日常における昆虫の印象について、昆虫体験前後で、ポジティブな変化が見られたことは、昆虫体験において、ホタルを手ののせる体験ができたことが影響していると考えた。日常の中でホタルを触ることなどできない都心部において、今回の昆虫体験は、世代を問わず、自然に対する興味関心を刺激したのではないだろうか。「ホタル観賞会」は、1年を通して限られた期間しか実施できないが、子どもの自然体験の奨励のため、来年以降も継続して行いたい。

付 記

本研究は、日本レジャー・レクリエーション学会の令和5年度研究助成を受けて実施した。

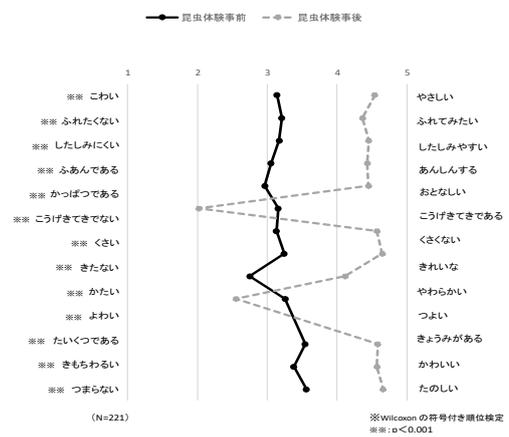


図1 日常における昆虫の印象について